

ヘルスケアワーキンググループの設置について

1 背景「茅野市における地域 DX の推進とデジタル田園健康特区」

茅野市の人口は近年減少しており、特にまちの担い手となる生産年齢人口の流出と、高齢化に伴う老年人口の増加が課題となっている。この課題解決の手段として、データやデジタル技術を活用する地域 DX の推進について検討してきた。併せて、この取組を国の支援も受けながら進めるため、新たな国家戦略特区であるスーパーシティ構想への手上げを行った。結果として、今年 4 月にデジタル田園健康特区に指定されたことから、課題解決に向けての検討に着手している。

事業検討にあたり行った市民ワークショップでは、デジタル技術と規制緩和を活用して解決すべき地域課題として、まずは一番要望の多かった「健康」を中心に進めることとされ、市としては当局が地域とともに 20 年来注力してきた「地域包括ケア」のアップデートを柱とすることとした。

2 茅野市 DX 推進協議会と分野別ワーキンググループ

茅野市全体 DX の検討・推進にあたっては、12 月 14 日に設立した、医療関係者、産業界、学術機関等の関係者からなる「茅野市 DX 推進協議会」にて実施する。

本ワーキンググループは、この「DX 推進協議会」における分野別のワーキングの1つとしてヘルスケア分野の地域 DX 事業も含めた検討や事業実施を担っていただきたいと考えている。本ワーキンググループにおいては、まず目下の課題である特区事業について、その実施方法等について検討を進めてまいりたい。

3 ヘルスケアワーキンググループの役割

長年にわたり地域で実際にヘルスケアの現場に関わってこられた皆様の視点(①時代の変化や要請に合わなくなった各種法規制の拾い出し、②先端技術の導入等による業務の改善や合理化など)を基に、当地域に暮らす人々の一層の健康増進・病などからの回復の促進を図るとともに、医療・福祉分野に携わるすべての人々の QOL の改善を図る。

加えて、本ワーキンググループの検討と活動から得られた成果を広く国内に公表することにより、わが国全体の福祉の向上に貢献する。

4 ヘルスケアワーキンググループの構成

(座長)往診クリニックちの 林 直樹先生

- ・茅野原地区医師会(主に在宅医療に関わる医療機関) 8名
- ・諏訪中央病院 医師2名、薬剤部1名
- ・訪問看護ステーション 3 名
- ・諏訪薬剤師会 4 名